

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 特に指摘なし
2016 年度外部評価委員会指摘事項 特に指摘なし
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート IV 次年度への課題 より転記） 「高度化に対応した教育内容の提供」については 2017 年度からスタートする新カリキュラムに関して教務委員会が中心になって定期的にアンケート調査を実施したいと思います。

Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学研究科
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-2	教育課程・教育内容【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	4-2-1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況
	順次性のある授業科目の体系的配置
	講義科目と演習科目（研究指導）のバランス
点検・評価項目(2)	4-2-2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供
点検・評価項目(3)	4-2-3 国際化に対応した教育を行っているか。
	教育課程における国際化の推進
	学生の国際交流（交換留学、海外研修等）の推進
点検・評価項目(4)	4-2-4 教育課程の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-2-1	スポーツ・健康科学研究科修士課程は、スポーツと医療を通して健康の維持・増進に貢献できる分野横断の幅広い知識と高度な専門的知識を有した人材を育成するために、スポーツ活動に対する心身の適応と行動に関する研究を行うスポーツ分野と、健康や医療に関する研究を行う健康分野の 2 分野がある。 前者は、スポーツ生理学・応用スポーツ科学研究などの「スポーツ科学分野」、後者は、細胞生物学・予防医学などの「健康科学分野」を置いている（新カリキュラムを記載した A4-2-14、A4-2-2 第 5 条の 3 別表 7）。 また、2 分野の必修共通科目として、科学的研究思考の基礎となる原則や手続き、研究計画から修士論文執筆までの研究過程の概要を理解させるために、「スポーツ・健康科学研究法」を配置している。この授業では、文献検索・統計学・研究倫理など基礎的な科目を学修させ、教員の専門分野の研究事例を今後の大学院生の課題研究に活かせるような整合性のある科目指導を行っている。 さらに、教育目的を達成するために、所属分野以外の関連科目（特論、演習）10 単位以上を履修させ、分野を横断した総合的視野の拡大と専門的洞察力の向上を図っている。各講義科目は「特論」および「演習」と一対となっており、「特論」では、院生が今後の研究を推進していくうえで必須の基礎知識を身につけられるよう配慮し、「演習」では特論で修得した基礎知識を踏まえて専門性を高める内容になっており、「スポーツ・健康科学研究法」では修士論文の執筆に必要な基礎知識から応用まで、「科学英語」では英語でのプレゼンテーション能力を高めるなど、順次性のある授業科目を体系的に配置している。このほか、所属する学会のプレゼンテーションにおいて、議論が活発に行えるよう自主性を重視した授業展開も推し進めている。また、指導教員は新生を、入学後の初期の段階から綿密な打ち合わせを積み重ねて、研究計画から修士論文作成まで、責任を持って指導している。 2017 年度開講科目数は、講義科目が 19、研究指導科目・論文作成指導科目が 33 である（A4-2-14 p.8）。 以上のように本研究科は、教育課程の編成・実施方針に基づき、コースワーク（講義科目）とリサーチワーク（研究指導科目・論文作成指導科目）のバランスに留意し、授業科目を適切に開設している。
4-2-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 （1）必要な授業科目の開設状況について【○】

	具体的事例：2017年度から新カリキュラムがスタートし、国際学会でのプレゼンテーションおよびデータベースの情報収集に必要な「科学英語」を開設している。 (2) 順次性のある授業科目の体系的配置について【○】 具体的事例：2017年度から順次性のある授業科目の体系的配置も考慮した新カリキュラムがスタートした。 (3) 講義科目と演習科目（研究指導）のバランスについて【○】 具体的事例：2017年度から講義科目と演習科目（研究指導）のバランスも加味した新カリキュラムがスタートした。
4-2-2	スポーツ・健康科学研究科は、教育課程の編成・実施方針に基づいて、本課程に相応しい教育内容を提供している（A4-2-2第5条の3別表7、A4-2-16、A4-2-31）。 本研究科は、スポーツ活動に対する心身の適応と行動に関する研究を行うスポーツ分野と、健康や医療に関する研究を行う健康分野の2分野を置き、スポーツ科学及び健康科学を専門とする1241名の専任教員が講義・演習・論文作成指導にあたっている。 スポーツ科学分野では、スポーツ生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ心理学、運動制御・運動学習、パフォーマンス・アナリシス、ヘルスプロモーション、スポーツ社会学などの科目を配置している。健康科学分野では、細胞生物学、健康医学、予防医学、分子生命科学、生体情報科学、栄養生理学などの科目（それぞれの科目に対して特論と演習が開講されている）を配置している。また、分野横断的な科目として、修士論文作成のための共通科目「スポーツ・健康科学研究法」を、修士論文作成の指導科目として、2分野それぞれに「特別研究A」および「特別研究B」を配置し、1名の演習担当教員の指導のもとで、修士論文の作成に当たる。 学生は、各領域の中から1つの領域を専攻したうえで、共通科目の「スポーツ・健康科学研究法」を4単位、2分野にそれぞれの「特別研究A」「特別研究B」を8単位、専門分野の中から特論・演習科目を8単位以上、専門分野以外から特論・演習科目を10単位以上履修する。これにより専門分野の知識をより深化させ、分野を横断した総合的視野とバランスのとれた専門的な洞察力を涵養することができる。
4-2-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供について【○】 具体的事例：2017年度からスタートする新カリキュラムに関して、教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい高度化に対応した教育内容を提供しているが、この新カリキュラムが高度化に対応した教育内容を提供しているか教務委員及び自己点検・評価委員が中心になって検討し、学生のアンケート調査を通じて実施検証していく。
4-2-3	外国留学の経験を有する教員や定期的な国際学会の参加や共同研究での海外出張が行われているが国際化に対応した教育は行われていないのが現状である。
4-2-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 教育課程における国際化の推進について【○】 具体的事例：外国留学の経験を有する教員や定期的な国際学会の研究発表や共同研究等で海外出張の豊富な教員を中心に、大学院生が国際学会でプレゼンテーションを行えるよう個別に指導を行ってきているが、2017年度の新カリキュラムから「科学英語」を共通科目（必修科目）として、大学院生全員が国際学会でのプレゼンテーション能力が高まるよう国際化の推進に務めている。 (2) 学生の国際交流（交換留学、海外研修等）の推進について【×】 具体的事例：
4-2-4	教育課程の適切性については、研究科の教務委員会、カリキュラム改革ワーキンググループにおいて定期的に検証を行い、研究科委員会に報告がなされている（B4-2-18、B4-2-23 d2-表19）。
4-2-4	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 教育課程の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【○】 具体的事例：教育課程の検証については、研究科の教務委員会及び自己点検・評価委員会が中心となって定期的に検証を行い、研究科委員会に報告する。

【効果が上がっている事項】

4-2-1	
4-2-2	
4-2-3	
4-2-4	

【改善すべき事項】

4-2-1	
-------	--

4-2-2	教員は「高度化に対応した教育内容」を大学院教育・大学院研究に提供してきたが、教育内容に関するアンケート調査を行っていないため、教員に対する「高度化に対応した教育内容を提供しているか」に関するアンケート調査を実施する。
4-2-3	
4-2-4	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～2018)	4-2-2 高度化に対応した教育内容を提供しているか調査するシステムの構築。	「スポーツ・健康科学研究科自己点検・評価委員会報告書」に検討結果が記載される。	→		A	A	
	4-2-3 教務委員会を中心に留学生向けの国際化に対応した教育の準備を行う。	留学生数の増加	→		B	B	
	4-2-4 教育課程の適切性に関する定期的な検証のためのシステムの構築。	「スポーツ・健康科学研究科自己点検・評価委員会報告書」に検討結果が記載される。	→		A	B	
16 年度 目標	4-2-2 今年度は、スポーツ・健康科学研究科内の自己点検・評価委員会を中心に、教員に対する「高度化に対応した教育内容を提供しているか」に関するアンケート調査を行う。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検・評価委員会報告書」に記載される。			A		
	2014 年度の 4-2-3、4-2-4 に対する成果がないため、再検討する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。					
17 年度 目標	(対象期間は 2017 年 4 月～2018 年 3 月) 4-2-2 2017 年度からスタートする新カリキュラムに関して、教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい「高度化に対応した教育内容」を提供しているか、教務委員及び自己点検・評価委員が中心になって定期的に検証し、学生にアンケート調査を実施する。	研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。				B	

Ⅳ 評価専門委員所見

4-2-1【現状】 全体的に基礎から高度の専門に至る教育課程として、大変体系だったカリキュラムと見受けられます。「スポーツ科学分野」と「健康科学分野」両方にまたがる一年次の必修科目として「スポーツ・健康科学研究法」が設置されている点は、大学院の初年次教育として大変理想的な方策であり、多いに評価できます。

4-2-3【現状】 教育課程の適正性を客観的に測る指標の一つとして学生アンケートの結果を用いている点が、教員ではなく学生からの視点も適正を図る目安となっている点が多いに評価できます。

Ⅴ 所見への対応

4-2-1【現状】及び4-2-3【現状】のコメントは今後の当研究科の教育研究活動の励みになります。

Ⅵ 次年度への課題

--

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-2-2	大東文化大学大学院学則	《既出》A1-2
A4-2-14	2017 年度大学院履修要項スポーツ・健康科学研究科	
A4-2-16	大東文化大学・大学院シラバス (CD-R)	
	大東文化大学ホームページ (Web シラバス) http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html	
A4-2-31	2017 年度スポーツ・健康科学研究科時間割表	
B4-2-18	2014 年度第 5 回スポーツ・健康科学研究科委員会議事録	
B4-2-23	大学データ集 《既出》B1-22	
〔追加資料〕		